

関東重点「道の駅」候補 企画検討支援の進め方

課題の確認

- ・候補駅の設置者から、企画検討にあたり、専門的な意見等を伺いたい内容を確認



課題と専門分野の設定



専門家の抽出、参画要請、委嘱 ※派遣毎に個別に実施



記者発表

- ・重点「道の駅」候補を拠点とした取り組み等を進めるにあたっての課題に対応するため、専門家がアドバイザーとして現地に入って支援



第1回

- ・首長出席のもと、現地見学、現時点での構想の説明、市の産品や史跡、各種計画等現況の確認、意見交換



第2回

- ・アドバイザーから、過去に参画した取組で好事例となる取組に関する資料提供とアドバイス、意見交換

➡ 道の駅の企画のブラッシュアップ



年数回、継続的に実施

平成27年4月13日(月)
国土交通省 関東地方整備局

記者発表資料

重点「道の駅」候補 おけがわ の企画検討を進めるため、
専門家がアドバイザーとして現地に入って支援します
～ 重点「道の駅」候補への企画検討支援が始まります ～

国土交通省では、「道の駅」を経済の好循環を地方に行き渡らせる成長戦略の強力なツールと位置付けるとともに、地方創生を進めるための「小さな拠点」の一つのモデルになると考え、関係機関と連携して、特に優れた取組を選定し、重点的に応援することとしています。

道の駅 おけがわ は、今年1月に地域での意欲的な取り組みが期待できる重点「道の駅」候補として関東地方整備局長に選定されています。

このたび、特産品や観光資源を活かした取り組みや防災機能強化により、道の駅 おけがわ が地域の拠点としての機能を強化するための企画検討を進めるため、十分な知識と経験を有する専門家にアドバイザーとして現地に入って支援していただくこととしましたのでお知らせします。

開催概要(別紙参照)

○日 時:平成27年4月15日(水)10時00分～12時00分

○実施駅:道の駅「(仮称)おけがわ」

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、神奈川建設記者会、長野県庁会見場、長野市政記者クラブ、長野市政記者会、山梨県政記者クラブ、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、高崎記者クラブ、栃木県政記者クラブ

問合せ先

(重点「道の駅」制度について)

国土交通省 関東地方整備局 道路部 TEL 048-600-1341
道路計画第一課長 篠田 宗純 (しのだ むねすみ)

(道の駅 おけがわ について)

国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 TEL 048-669-1200
計画課長 藤坂 幸輔(ふじさか こうすけ)

○日 時 平成27年4月15日（水）10時00分～12時00分

○実施箇所 道の駅「（仮称）おけがわ」〈桶川市川田谷4414〉

○専門家（敬称略）

立正大学 地球環境科学部 教授

伊藤 徹哉

リクルート ジャらん関東・東北版編集長

大橋 菜央

株式会社 意と匠研究所代表

日経BP社 日経デザイン 前編集長

下川 一哉

埼玉県 危機管理防災部 消防防災課長

澁澤 陽平

○当日の予定

10:00～ 桶川市農業センター集合

小野 克典 桶川市長 挨拶

桶川市や道の駅の企画提案の概要説明等

10:40～ 整備予定地の確認

（説明終了後、出席者へのぶら下がり取材可能）

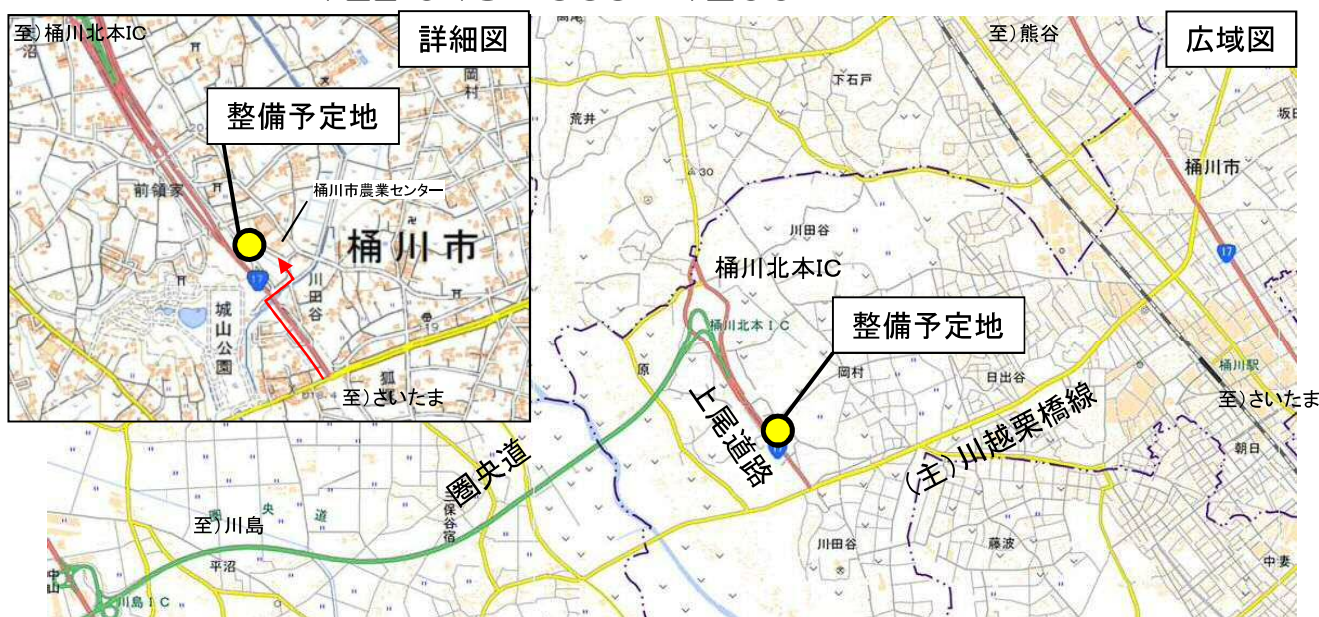
11:20～ 桶川市農業センターにて意見交換（取材対象外）

○取 材

取材を希望される方は、事前に以下までご連絡をお願いします。

大宮国道事務所 計画課長 藤坂 幸輔

TEL 048-669-1200



○ 圏央道・上尾道路の開通により広域交通網の結節点として、観光及び広域防災拠点としてのポテンシャルが期待されています

<地方創生活拠点としての機能> ゲートウェイ型 地域センター型

インバウンド観光
県内や関東地方の観光のハブ

観光総合案内
桶川隣泊と農業体験

産業振興
近郊農業の活性化拠点

防災
広域支援部隊の活動拠点



(仮称)「道の駅」おけがわ
圏央道桶川北本ICに隣接し、関東地方の中央に位置し、様々な観光資源を「つなぐ」地域のゲートウェイになります。

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
おけがわ	埼玉県	桶川市	国道17号	新設	平成30年度(予定)	一体型



<提案の先駆性・ポイント>

- 市内観光、県内観光(川越市、秩父市等)、関東地方の観光(世界遺産等)のハブとして、多言語化した観光案内、無料公衆無線LAN、EV充電設備等を整備します。
- 広域交通網の結節点、地盤の良い大宮台地という立地特性を活かし、首都圏災害時の後方支援拠点としての役割が期待されます。

<実施内容>

- 無料公衆無線LANやEV充電設備等の設置
- ペに花めや農業体験など地域農家との連携
- 周辺防災関連施設(埼玉県防災航空隊等)との連携
- 太陽光発電、防災かまど・ベンチなど高い防災機能を備えた道の駅

平成25年10月撮影

第1回 道の駅おけがわアドバイザー会議 実施概要

○日 時 平成27年4月15日（水）10時00分～12時20分

○実施箇所 道の駅「（仮称）おけがわ」〈桶川市川田谷4414〉

○出席者

専門家（敬称略）

立正大学 地球環境科学部 教授 伊藤 徹哉

リクルート マガジンビジネス推進部 部長 大橋 菜央

株式会社 意と匠研究所代表、
日経BP社日経デザイン前編集長 下川 一哉

埼玉県 危機管理防災部 消防防災課長（代理） 田中 勉

桶川市 小野 克典 市長

埼玉県 県土整備部 濱川道路環境課長

関東地方整備局 道路部 石川道路環境対策技術分析官
大宮国道事務所 真田事務所長

○実施概要

10:00～ 桶川市 小野 克典 市長 挨拶

桶川市から桶川市や道の駅の企画提案の概要説明等



10:40～ 整備予定地の確認



第1回 道の駅おけがわアドバイザー会議 実施概要

11:20～ 桶川市農業センターにて意見交換（特産品の試食などを実施）



（主な意見）

- 豊富な地域資源をつなぎ、道の駅をその体験・回遊型ゲートウェイとすることに可能性を感じる。
- 飛行機の離着陸を見れて子供が喜ぶエアポートや荒川、農業・酪農と連携しつつ、自転車や徒歩で回りやすくするなど、魅力を高めて行ってはどうか。
- 旅行目的は温泉からご当地でしかできない、食べられないものを体験することに変化。特に500円以下のテイクアウトグルメ等必須アイテムをしっかり開発する必要がある。
- 「バリアフリー」や「赤ちゃん」「犬」「マタニティ」「三世代」が旅行情報サイトのワード検索で増加。動きにくい方が動き出しており、更に増えていく。これに応える道の駅を目指してはどうか。
- 平日は地元の方、休日は都心からの日帰り観光を想定するなど、週の中で主な利用者が変化することも意識して進めるとよい。
- 地域活性化の3要素は「人材」「地域財」「即時性」。また、再訪したいと思える資源、種まきと収穫、などを意識すべき。
- 流行への対応力に関しては、硬直化しないよう運営の検証や、若者・現場のアイデアを取り入れる風土の醸成が必要。
- 埼玉県は災害が少なく高速道路網が充実。桶川は埼玉の中央に位置しており後方支援の適正が高い。東日本大震災時に道の駅が果たした役割を踏まえた検討が必要。
- 弱者対応と災害対応は同じことであり、分けて考えるよりオーバーラップさせられるデザインを考えていくべきではないか。

